

競技内容

スタートの合図により、ボール固定エリアに置かれた収穫物(3種類のボール)を、ロボットが石畳の坂(スロープ)の上にある王府(ボール受け)に入れる。その後、そのボールに対応した御礼品(缶詰やテニスボール)を、御礼品エリアからガジュマル(天秤および天秤カゴ)へと運びこむ。これが、「守礼の邦のロボット収穫祭」と名付けられた、沖縄大会の競技ルールである。

各試合は対戦形式で行われ、天秤カゴに入っている御礼品の合計得点で勝敗が競われる。その得点で上回るか、より速く最高得点を獲得したチームが、トーナメントを勝ち上がっていくのだ。

各試合の競技時間は3分間である。1チーム2名で構成され、ロボットを操縦する者は所定の操縦エリアから出てはいけない。つまり、スロープ側にある操縦エリアからは、スロープの裏側に当たる御礼品エリアは死角となる。

そこで活躍するのが「ナビゲーター」と呼ばれるもう一人のチームメイトとなる。ナビゲーターは自コートから出てはならないが、操縦者に指示を与えることができる。

この二人のチームワークが勝敗のカギを握るのである。

御礼品エリアの缶詰などの配置や、天秤カゴの向きなどは、競技開始前に調整できる。この時間は60秒間と定められているので、ここでも役割分担が大切となる。

競技がスタートすると、まず行わなければならないのが、スロープを登りきった先に設置されている、ボール受けに所定のボールを入れることだ。

このボールは3種類ある。サッカーボールとソフトボール、硬式野球ボールだ。すべての種類をボール受けに入ればよいというわけではなく、天秤カゴへと運び込む3種類の御礼品にそれぞれが対応しており、どの御礼品を運びこむのかによってボールを選ぶことになる。ボールを入れた時点で、対応する御礼品を天秤カゴに入れられるようになるが、他のボールを入れれば、その御礼品を扱えるようになる代わりに、それまでの御礼品を天秤カゴに入れられなくなる(入れてしまうと失格になる)。

また、ボール受けに入れるボールは、床やスロープを転がして運ばなければならない。持ち上げて運んではならず、出場ロボットのほとんどが、囲い込むような機構を備えて、それでボールを転がしながら、スロープを登りきっていた。

このボールがボール受けに入った時点で、それに対応する

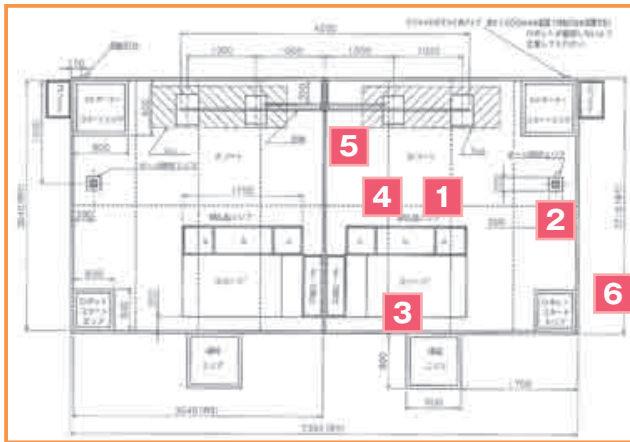


図1 コート図

御礼品エリアの缶詰などを取り込み、天秤カゴに入れることができるようになる。

